

「活力と笑顔あふれるまちスマイルシティ山陽小野田」の実現に向けて

# 令和5年度 市長施政方針



新型コロナウイルス感染症に関して、季節性インフルエンザと同等の5類感染症への引き下げが現実味を帯びてくるなど、「アフターコロナ」に向けての足掛かりが見えてまいりましたが、その一方では、急激な円安や物価高騰により、日常生活や事業活動における様々な場面で、必要経費の増加等の影響が生じることとなりました。先行き不透明な社会情勢が続いていますが、本市の進むべき方向性を示す羅針盤となる、第二次総合計画中期基本計画に基づく施策を一つ一つ丁寧に実行に移し、住みよい暮らしの創造を通じた、「活力と笑顔あふれるまち スマイルシティ山陽小野田」の実現に努めてまいります。

本市では、市政運営の基本となる考え方に「協創によるまちづくり」を掲げており、令和5年度は、協創によるまちづくりをより積極的に推進していくための体制整備として、新たに「協創部」を創設することといたしました。また、近年力を入れて取り組んできた分野の一つであるデジタル化の推進につきましても、デジタル推進課を新設し、スマートシティとスマート自治体といったデジタル化の2つの大きな柱の実現に向け、効率的かつ効果的な組織運営に取り組んでまいります。

重点施策の一つ目「地域を創る」については、地域運営組織の立ち上げに向けた補助金制度の創設や集落支援員の配置など、組織の立ち上げから形成後の事務局機能までサポートする体制を構築してまいります。また、地域おこし協力隊につきましては、市内全域を対象とした募集に拡充し、広くまちの活性化、地域課題の解決に努めてまいります。新規事業といたしましては、「協創によるまちづくり提案事業」に取り組み、市民活動団体等から提案のあった公益性の高い事業に対し、ふるさと納税制度を活用したクラウドファンディングを用いて支援を行います。

重点施策の二つ目「ひとを創る」については、子育て応援ギフト事業とあわせて、新たに出産応援ギフト事業に取り組むことで、より一層の経済的な支援を図るとともに、切れ目のない子育て支援に努めてまいります。入学祝金事業につきましては、対象を拡大し、新たに中学校入学を迎える生徒の保護者に対して祝金を給付します。また、小学校1年生から中学校3年

生までを対象とした、子ども医療費助成事業につきましては、令和5年8月診療分から所得制限を撤廃し、医療費の無償化に取り組んでまいります。

重点施策の三つ目「まちの価値を創る」については、文化振興の大きな取組として、第9回現代ガラス展を開催し、昨年立ち上げたガラスアートのブランド「CLASS GLASS(くらすグラス)」の展開と併せて、ガラスアートのまちとしての魅力向上に努めてまいります。

官民連携の推進では、LABVプロジェクトが、国が主催する「地方創生SDGsの達成へ向けた官民連携取組事例」において、最上位の賞である「内閣府地方創生推進事務局長賞」を受賞するなど、「まちの価値を創る」取組として高くご評価いただいたものと感じています。引き続き、民間主体との協創を進めていながら、中心市街地のにぎわい創出を図ってまいります。

3つの横断的施策の観点からは、新規事業として、山口東京理科大学との協創・データ活用によるスマートシティ推進事業に着手いたします。バイタルデータを収集・蓄積し、活用するためのデータ連携基盤を、将来的な都市OSの構築等も視野に入れながら整備し、市民の健康増進施策への展開を図る事業を進めてまいります。収集したデータの分析については、令和5年度から新たに数理情報科学科が開設された山口東京理科大学と十分な協力体制を築き、より良い成果に繋がるよう取り組んでまいります。

中期基本計画の2年目となる令和5年度は、小さいことであっても、成功事例を積み上げていくステップが重要になってくると考えています。市民のみなさまをはじめ、団体、企業、学校など、異なる立場の方々と一緒にアイデアを出し合いながら、様々な場面で成功体験の実感を得ることが「協創によるまちづくり」の継続性を高め、さらに先へと進めていくための原動力にもつながってまいります。

令和5年度におきましては、「実感」を通じて協創によるまちづくりの更なる推進を図るとともに、中期基本計画を着実に進めていながら、全ての世代のみなさまが笑顔で暮らしていけるよう、職員一同取り組んでまいります。

3月市議会定例会の施政方針演説の概要